



PACIFIC CARGUY RACING

2022 AUTOBACS SUPER GT Round2 Fuji GT 450km RACE REPORT

カテゴリー	:GT300クラス
エントラント名	:PACIFIC CARGUY Racing
マシン名	:PACIFIC hololive NAC Ferrari
カーナンバー	:9
タイヤ	:ヨコハマタイヤ
ドライバー	:木村武史、ケイ・コッツォリーノ
レースクイーン	:Pacific Fairies
開催日	:2022年5月3日-4日
会場	:富士スピードウェイ（一周4.563 k m）
天候	:3日 ☀(Dry) 4日 ☀(Dry)
気温	:3日 16℃→14℃ 4日 20℃→17℃
路面温度	:3日 23℃→19℃ 4日 33℃→22℃
参戦車両数	:GT500/15台 GT300/28台 合計43台
Best Lap	:1:35.385
Q1 Bグループ	:1位
Q2	:16位
決勝	:23位

PACIFIC hololive NAC Ferrari

大波乱となった初の450kmレース
不運なアクシデントに見舞われるも見事完走！

事前情報

CARGUY RacingとのタイアップでGT300クラスへフェラーリ488 GT3で参戦。女性バーチャルYou Tuberグループ「hololive(ホロライブ)」とタイアップしたカラーリングには大きな注目が集まっている。開幕戦をヨーロッパ・ル・マン・シリーズ(ELMS)に参戦したことで欠場していた木村武史が戻り、ケイ・コッツォリーノとのコンビでの参戦となった。

予選日3日の天候は晴れ。9時に始まった公式練習では、木村が24周、ケイが18周して車両とタイヤをチェック。ベストタイムはケイがセッション序盤の混走時にマークした1分36秒327で、これはクラス8番手となるものだった。

公式予選：Q1 Bグループ



2022.5.3

15:18-15:28

ドライバー：ケイ・コッツォリーノ

気温：16℃

路面温度：23℃

順位：Bグループ 1位

Best Lap：1:35.385

Lap数：5Lap

走行距離：22.815km

■ 2戦連続でGT300トップタイムをマークしQ2へ進出

GT300クラスの予選は、シリーズランキングにより14台ずつのA組、B組に分けられ、PACIFIC hololive NAC Ferrariは強豪の揃うB組に区分された。14台のうち上位8台に入れば、Q2への進出となる。ケイが3周をかけてタイヤを暖め、その3周目に1分37秒659のトップタイムをマークした。しかしこれを更新する車両があり、4周目にアタック。1分35秒385でトップを取り戻し、問題なくQ1を突破することになった。A組のトップタイムは1分35秒816であり、ケイのタイムはGT300クラス総合でもトップであった。

公式予選：Q2



2022.5.3

15:53-16:03

ドライバー：木村武史

気温：14℃

路面温度：20℃

順位：16位

Best Lap：1:37.594

Lap数：5Lap

走行距離：22.815km

■木村はニュータイヤの使い方に苦戦し16位

Q2はQ1よりも気温、路面温度共にやや下がったコンディションで始まった。木村はコースインし3周かけてタイヤを暖め4周目にアタック。しかしTGRコーナー(1コーナー)でブレーキが遅れオーバーラン。ベストラップとはならなかったが1分37秒594で10番手につけた。しかしその後このタイムを更新する車両があり、結果的に16番手となった。ニュータイヤの難しさを痛感したようだった。

決勝



2022.5.4

14:36-18:22

第1スティント：ケイ・コッツォリーノ

第2スティント：ケイ・コッツォリーノ

気温：20℃

路面温度：33℃

順位：23位

Best Lap：1:37.641

Lap数：55Lap

走行距離：250.965km

4日も朝から好天となり4万4,000人のファンがサーキットに詰めかけた。予選日も2万9,000人が来場しており、2日間の観客数は7万3,000人と、ゴールデンウィークの富士ラウンドの人気の高さがうかがえた。決勝の前に20分間行われたウォームアップ走行では、ケイから木村につながるベストタイムは2番手となる1分36秒898。決勝の追い上げに期待がかった。

通常より長い450kmレースでは、給油のためのピット作業が2回義務付けられている。チームは、まずケイを2スティント連続で走らせポジションを上げ、最後のスティントで柔らかいタイヤを履いて木村がポジションをキープするという作戦を採ることとした。

気温20℃、路面温度33℃というコンディションの14時30分にフォーメーションラップが開始。14時36分にグリーンランプが灯りレースがスタートした。ケイは大混雑するオープニングラップで3台をかわし13番手に浮上。3周目から3周連続でポジションを上げてトップ10入りした。さらに20周目あたりから早めのピットインをする車両が現れると、25周目には快調に7番手まで順位を上げて27周目にピットインして1回目の給油を行った。

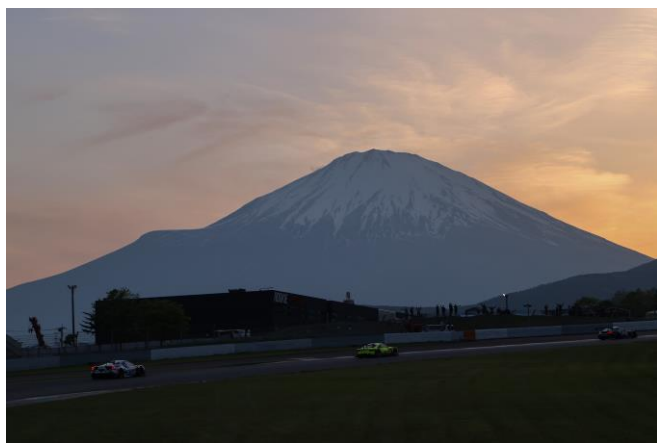
これで一旦20番手まで順位は落ちたが、他の車両がピットインするたびに順位を上げて行くはずだった。ピットアウト後は55号車NSXをびたりとマーク。そしてこれをパスした直後のアドバンコーナー(ヘアピン)で55号車NSXに接触を受けストップ。何とかピットへ戻りタイヤを交換し破損した部分を修復、コースへ戻ったが25番手まで大きく順位を落とすこととなった。

さらに39周目のアドバンコーナーではケイの目の前でクラッシュした車両があり、ケイはその破片を踏んでしまった。直後にFCY(フルコースイエロー)からセーフティカー(SC)導入となったが、40周目に破片を踏んだ左リヤタイヤがパンクして白煙を上げながらスロー走行に。これで緊急ピットインとなりトップから3周遅れの25番手となった。



クラッシュした場所のバリアを修復するために赤旗が掲出され、レースは中断。約25分後にレースは再開された。49周完了でバトルが再開されたが、今度は54周目にストレートで大きなクラッシュが発生し、再び赤旗が掲出されレースは中断。1時間半ほどをかけてコースに散らばったパーツやオイルを処理し、ガードレールの前にタイヤバリアを置くなどして、レースは18時10分に再開となった。また給油の義務も1回に減らされ、ドライバー交代の義務もなくなった。

レースの最大延長時間は18時20分と決められており、10分間はSC先導による周回。再開までのインターバルで2台の車両が走れない状態になったこともあり、ケイは最終的には23位でチェッカー。大きく荒れたレースで何とか完走し、チームポイントを獲得することはできた。次の鈴鹿では上位入賞を目指す。



COMMENT



エントラント代表 神野元樹

「車両のポテンシャルが良かっただけに、今回の結果は衝撃と悔しい気持ちでいっぱいです。ケイ選手が序盤に順位を上げ、最高の形で木村選手にバトンタッチできる状況に持っていく作戦でしたが、結果的にはアクシデントが続き、木村選手にバトンを渡すことができませんでした。とはいえ、アクシデントも含めてのレースです。今度こそ表彰台を狙えるよう、次回に向けてしっかりと準備を進めていきます」



木村武史

「何とも言えませんが、こんなレースもあるんですね。予定ではケイがダブルスティントでポジションを上げ、最後のスティントでは柔らかいタイヤで順位を守り表彰台を狙うはずだったのですが、ぶつけられたり不運が重なり残念な結果になってしまいました。ただクルマのポテンシャルが高いことは確認できていますから、次の鈴鹿ではもっと上に行けるようにしたいです」



ケイ・コッツォリーノ

「レースでは暫定ではあったもののトップ10に入れるくらい追いつけることができました。予定どおり最初のピットインを済ませ、予定どおりまた追いつけていたのですが、55号車NSXをパスした直後に接触を受けてしまいました。さらに22号車メルセデスのクラッシュは僕の目の前で起きて、デブリを拾ってしまいタイヤがブロー。ペースが良かっただけに残念です」

PARTNERS








SPONSORS





















